

## 令和3年度第1回金沢市総合教育会議

日時：令和3年9月2日（木）10:00～11:30

場所：金沢未来のまち創造館 3階

### 開会

（新保企画調整課長） 皆さま、おはようございます。定刻となりましたので、ただ今から令和3年度第1回金沢市総合教育会議を開催いたします。私は、事務局を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。本日の出席者につきましてはパソコン上に名簿がございますので、そちらをご参照いただければと思います。それでは開会に当たりまして、山野市長がご挨拶を申し上げます。

### 1 市長挨拶

（山野市長） 皆さん、おはようございます。ご多用のところ、お集まりいただきまして心から感謝申し上げます。事前に資料はお送りしてありますけれども、ここに来たらパソコンが1台置いてあるだけです。金沢市役所は昨年度、市役所の中を全部フリーアドレスにしました。いろいろな会議は原則ペーパーレスで行こうと。今、予算査定などは全部ペーパーレスでやっています。市長査定、市長や副市長のヒアリング、レクチャー等々についても原則、パソコンを持って職員の方が市長室、副市長室に入って説明するというふうになっています。今日も教育委員の皆さま方にはそういう形をお願いしたいというふうに思っています。

施設をご覧いただいたかと思います。そのときに説明もあったかと思いますが、コロナ禍でこの後の議論もあるかと思います。2番目の「コロナ禍における学びの保障について」、実は2学期が始まる前の8月下旬に、教育長が記者会見を通しまして保護者の皆さん、当然先生方にも教育委員会の思いをお伝えして、一緒に協力していこうということを述べていただきました。今日は教育委員の皆さまにも改めてお聞きいただきながら、また日々刻々と状況も変わっているところでもありますので、また皆さん方から現場のご意見もお聞かせいただければと思います。今日は本当にありがとうございました。

### 2 金沢未来のまち創造館の開館について

（新保企画調整課長） それでは協議に移りたいと思います。まず、今ほど視察していただきました「金沢未来のまち創造館」の開館についてでございます。事務局から説明の後、意見交換を行いたいと思います。それでは概要の説明の方、よろしくお願いいたします。

（上寺産業政策課長） 産業政策課長の上寺といいます。よろしくお願いいたします。歴史ある野町小学校の旧校舎が装いを変えまして、金沢の新たな歴史を刻む「金沢未来のまち創造館」に生まれ変わりました。初めに施設のこれまでの歩みをご紹介します。

野町小学校は、明治5年8月に第二大学区第一中学区第八区学校として創立しました。翌明治6年3月に校名を壺番小学校と改称し、明治7年3月には現在の第一善隣館保育所の地に移転し、野町小学校と改称しました。そして明治24年6月、現在の地に校舎を新築し、以来、明治、大正、昭和、平成と歴史を刻んでまいりました。卒業生は約2万人に上りまして、金沢の三文豪である室生犀星をはじめ、社会の各分野に数多くの有為な人材を輩出してきました。

地域からの愛情が深い野町小学校でありましたが、時代の移り変わりとともに児童数が減少してきました。市の教育委員会は、野町地区の住民、小学校の育友会などとの協議を行いまして、学校規模の適正化により子供たちの教育環境を向上させるため、隣接する弥生小学校と統合することを決め、平成26年3月、142年の歴史に幕を下ろすことになりました。翌4月、野町小学校と弥生小学校が統合し、ここ野町小学校を校舎として泉小学校が開校しました。子供たちや保護者、地域の方々が未来に向かって新しい一歩を踏み出しております。

平成27年10月、旧弥生小学校の跡地で泉小学校の新校舎の建設が始まり、平成29年3月、泉中学校と一体となった新校舎が完成しました。翌4月からこの新しい校舎が子供たちの学びの場となりました。老朽化した第一善隣館保育所、野町会館の建て替えに伴い、令和元年5月、旧野町小学校の校舎1階に野町公民館が移転しました。また、旧校舎は保育所の建て替え工事中の期間中、仮園舎としても利用されました。

金沢市は平成30年10月に新産業創出ビジョンを策定し、その最重要プロジェクトとして、既存の市有施設を活用した新たな価値創造拠点の整備を掲げました。多くの方々からのご意見を踏まえ、旧野町小学校の校舎を活用し、新たな拠点を整備することを決め、令和2年7月、工事に着手しました。地元にお住まいの方々をはじめ関係者の皆さまのお力添えの下、今年5月に建物が完成し、7月には前庭を含めた外周工事も終了し、新たな価値の創造と国内外に金沢の魅力を発信する「金沢未来のまち創造館」が8月8日に開館しました。

それでは、小学校の校舎から生まれ変わった「金沢未来のまち創造館」の概要をご説明いたします。

この施設の整備方針は三つありまして、ここ野町地区は寺町寺院群に象徴される重要伝統的建造物群保存地区にあります。その環境に調和した落ち着いた色調を基本に整備し、建築部分には木質の格子や庇、屋根を設置しました。小学校の校舎であったことから、子供たちが使っていた黒板や棚を可能な限り再利用したほか、既存の間仕切りに木材を用いるなど、開放的で温かみのある内部空間を作りました。また、産学官による共同活動を促す開放的な「場」と、子供や大学・企業の研究者、料理職人などがそれぞれ集中力を高め、創造を深める空間となる「室」を意識した配置としております。

施設の名称は、金沢の未来を作る原動力にしたいとの思いから、「金沢未来のまち創造館」としております。既存の旧校舎部分は鉄筋コンクリート造4階建てで、ここに新たに鉄骨造4階建てのエントランスホール、エレベーターがある増築棟を増設しました。延べ床面

積は約 4000m<sup>2</sup>です。施設の利用時間は午前 9 時から午後 9 時、休館は年末年始の 7 日間となっております。ただし、オフィスや研究室に入居する方は 24 時間 365 日利用が可能となっております。

三つの活動事業について説明いたします。

金沢市新産業創出ビジョンに掲げた「価値創造拠点施設のめざす姿」は、「AI・IoT 等の最先端技術の応用」「共創・成長する共同体の形成によるビジネスの創出」「独創的で卓越した知識・技能を持つ子供の育成」の三つであります。その上で、歴史に裏打ちされた文化のまちにおいて、第 4 次産業革命の新たな世界を開く子供や大学・企業の研究者などに、未来のまちの場を提供することにより、世界の交流拠点都市金沢の象徴としての役割をけん引する施設としております。

このことを踏まえ、この創造館では三つの活動事業が行われます。まず一つ目が、スタートアップ・新ビジネス創出事業です。利用する 2 階のフロアを「起業のまち」と呼びます。貸オフィスやシェアオフィスのほか、ワーキングスペースや多目的室を設け、事業発表会や商談会、ワークショップ、技術交流会などの開催を通じ、最先端技術を活用した新たなビジネスや食・工芸の付加価値の創出を目指す人たちを支援します。ワーキングスペースと多目的室には、ICT 技術を活用した地域資源の創出に向けて連携協定を締結しております、NTT ドコモ北陸支社様のご協力によりまして、次世代通信規格 5G 環境を整備しました。

二つ目は、子供の独創力育成事業です。利用する 3 階フロアを「好奇心のまち」と呼びます。創作・工作スタジオを設け、楽器やカメラ、モニターのほか、3D プリンター、レーザー加工機、電気窯などを設置し、音楽・映像・食・工芸などをテーマに子供の興味やアイデアを広げる活動を展開していきます。また、子供たちが興味を持ったテーマを探究するプロジェクト活動や発表会を通じまして、子供の独創力を育成し、将来を担う人材の育成を目指してまいります。

三つ目は、食の価値創造事業です。利用する 4 階のフロアを「食文化のまち」と呼びます。複数の調理台と最新の調理機器を設置した調理研究室を設け、料理職人の技術伝承や新たな調理法の開発により、食の持つ可能性を探求するほか、フードテックの講演会や食品ロス削減の意識啓発活動などを通じまして、金沢の食文化を発展させるとともに、食の豊かさの創造を目指してまいります。

エントランスホールのほか、展示スペースと交流カフェがある 1 階は「交流のまち」と呼びます。「食文化のまち」で開発されたメニューの試食会、「好奇心のまち」で作られた子供たちの作品の展示、「起業のまち」から生まれた新しい製品やサービスの体験など、三つの活動事業で生まれたさまざまなアイデアを多くの方々と共有し、みんなの声をこれからの活動に生かす交流の場とします。また、交流カフェの名称は「ノマチカフェ」として

おりまして、低廉でおいしい食事や飲み物等を、施設の利用者はもちろん、一般の方々にも提供いたします。

これらの活動事業は一般社団法人 CLL が運営を行います。CLL は、創業支援や新しい産業の創出、子供の独創的なコミュニティ活動、食文化事業の形成支援など、各分野で豊富な実績と広範なネットワークを持つ企業等により構成されている団体です。三つの活動事業を横断的・立体的に行い、互いに連携しながら、金沢の「金沢未来のまち創造館」を起点に新しい価値の創出を目指していきます。

CLL の行う事業のほか、開館後にこの施設で行う市の主な事業をご紹介します。

8月8日に開館した、こけら落としのイベントとして、将来の和食料理人の発掘・育成を目指す「全日本高校生 WASHOKU グランプリ 2021」の決勝大会を8月10日に開催しました。全国から応募があった110チームから上位6チームが決勝大会に進み、今年のグランプリは、地元沖縄の食材を使用し卓越した調理技術を披露しました浦添工業高校に輝きました。

また、2019年第1回大会で準グランプリを受賞した北海道三笠高校の生徒が今年4月に、市内で先進的な料理を提供しております OPENSAUCE という会社に入社したほか、グランプリを受賞した長野県野沢南高校と審査員特別賞を受賞した大分県別府溝部学園高校の生徒が先月、銭屋のインターンシップに参加するなど、次代を担う料理人の発掘・育成につながっております。

また、食文化のまち金沢において未来を担う次世代を育成するため、小学校4年生から中学校3年生を対象とした「和食のジュニアエリート養成事業」を実施しております。地元金沢のプロの料理人を講師に連続5回の講座を実施し、若者の和食への興味関心を深めてもらい、食を支える人材の裾野拡大を目指しております。

新産業の創出やイノベーションを起こす創造性豊かな人材を育成するため、今年度から「金沢 IT 部活」を実施します。中学生、高校生を対象に、IT リテラシーの向上に向けた実践的なプログラミング技術の習得に加えまして、将来的には IT だけではなく、起業家精神の育成を図り、創業に関する講義やプレゼンテーションスキルなどを習得し、金沢から未来のスタートアップが生まれるように、次世代の起業家を養成したいと考えております。また、実施においては石川県情報システム工業会と連携しまして、息の長い継続的な活動ができるよう取り組んでまいります。以上で私からの説明を終わります。

(新保企画調整課長) それでは、今ほどの説明を踏まえましてご意見を頂戴したいと思います。教育委員の皆さま、いかがでしょうか。それでは櫻吉委員、どうでしょうか。

(櫻吉委員) 非常に歴史のある学校をきれいにリノベーションされていて、施設的には素晴らしいと感じました。中にある機材なども 3D プリンターやレーザー加工機など非

常に高度な道具がそろっていて、それを子供たちがどういうふうに使いなしていくのかなと思いました。一体どのぐらいの年代の方を対象にしているのかということが一つと、もう一つはやはり、それをしっかり使いこなせるようなインストラクターというか、そういう方がしっかりしていないといけないのかなと思ったのですけれども、そういう体制はどのようにされているのか教えていただけますか。

(上寺産業政策課長) まず子供たちの対象は、おおむね小学校4年生以上としております。中学生、高校生もちろんOKであります。それから、いろいろな機械を使う際の指導というご質問でしたけれども、委託事業者のCLLの構成メンバーの中にVIVITAという会社がございます。今、金沢市のこの野町の方には、指導者としてエンジニアであったりデザイナー、あるいはそういう3Dプリンター、レーザー加工機の知識を有している大人が利用について指導していく体制を取っております。

(櫻吉委員) 分かりました。ありがとうございます。

(新保企画調整課長) その他ありませんか。丸山委員、お願いします。

(丸山委員) 学校の良さと最新の技術が融合されたとてもすてきな施設だと思うのですが、子供たちがこれから利用するということに、今紹介していただいたようなイベントが定期的にある他に、例えば放課後あるいは土日、ふらっと子供たちが来て利用できるということがあるのかどうかということ。また、夏休みの宿題や自由研究というところで、利用することも可能なのかどうかお聞きしたいです。

(上寺産業政策課長) 子供たちがこの施設を利用する際には、参加登録というものをさせていただいております。例えば、子供たちが夏休みの自由研究をやりたいということであれば、自由提案型で子供たちが好きなことをしていく、興味深いことをしていくということも、この施設の活動の中で認められております。

(丸山委員) ありがとうございます。あとちょっとお聞きしたいのが、仕事のオフィスとして大人の方が使われる、あるいは子供が使う、中学生、高校生も使うということが出てくると思うのですが、いろいろな年代がこの施設を使うというところで、そのあたりの悪い意味でのトラブルというか、そういうあたりがなきにしもあらずかなと思うのです。高校生が例えば小学生にちょっかいをかけるとか、そのあたりの利用の注意をする方がいいのかとか、安全面のところのお話もお伺いしたいです。

(上寺産業政策課長) 子供の事業については、この3階がメインのフロアになります。子供たちが活動しているときには複数のスタッフでサポートしていただくよう委託事業者には指導しています。それから、2階については事業者の方や起業を考えている方が使われますが、子供たちがその事業者と連携するような場面がない限りは、交わることはあまりないと思います。なので、3階を中心にやる事業についてスタッフが子供たちの安全性な

りを見ていくということにさせていただきます。

(青木金沢未来のまち創造館長) よろしいでしょうか。皆さん、先ほどご覧になっていたとおり、各フロアに関所が必ずあるので、そこはカードキーがないとまず入れないということがあります。2階を利用する方、3階を利用する方、4階を利用する方、おのこのセキュリティがありました。ですので、基本的に物理的には分けられているということと、あと2階も3階も4階も、先ほど課長が申しましたとおり、メンバーシップ登録制で利用する形になりますので、身元のはっきりした方たちが利用することが条件になっておりますので、そこら辺は大丈夫かと思っております。

(丸山委員) ありがとうございます。

(新保企画調整課長) その他、いかがでしょうか。では、木村委員、お願いします。

(木村委員) 個人的なことで申し訳ないのですが、娘の夫が OPENSAUCE の社員でして、ここのお話は普段の会話で聞いておりました、一度拝見したいなと思っておりました。今日は本当にありがとうございました。とても設備などが充実していて、金沢の未来を考える上で本当にありがたい施設だなと思っておりました。先ほどちょっとおっしゃったかもしれませんが、このプロジェクトの企画運営などを CLL の方がなさるといふふうに判断してよろしいでしょうか。

(上寺産業政策課長) はい、そのとおりです。

(木村委員) それは、CLL でもいろいろな会社が入っていらっしゃるのか、人は代わるということですか、常時同じ人ではないということですか。VIVITA の方とかも。

(上寺産業政策課長) まず、新産業創出、起業の方は、CLL の構成員である secca、MISTLETOE というところが中心になって行きます。それから、子供の独創力育成事業については VIVITA というところが中心になって行きます。食については、今おっしゃられました OPENSAUCE であったり、銭屋であったりが中心になって行きます。

(木村委員) 分かりました。ありがとうございます。今後のこういういろいろなイベントというか催し物は、ネットでしか知ることができないのでしょうか。こういうことが今度ありますよということを知りたいと思うのですけれども、パソコン上でないと分からないものなのでしょうか。教えてください。

(上寺産業政策課長) 今は市のホームページだったり事業者のホームページでイベント等を紹介しておりますが、今後は紙ベースであったり、周知方法について事業者とまた相談してやっていきたいと思っております。

(木村委員) 分かりました。ありがとうございます。

(新保企画調整課長) その他、いかがでしょうか。田邊委員、お願いいたします。

(田邊委員) 新しい設備、施設、とても魅力的であると実感しました。このコンセプトであるイノベーションを生み出す場、特に大人に向けての、そういうメッセージと、もう一つ子供たちにとって未来の担い手になるような発案が起こってくる場といった、大人に対しても子供に対しても世代を交えて取り組める場であることは、とても可能性に満ちた場になりうると想像しています。子供たちにとって魅力的な活動ができる場だということが周知されて、しっかりなにかをやりたいという子供たちがこの場を活用して、自分たちがやりたいことを主体的に取り組める場だということが本当に周知されて活用できる場になればと思います。

一方で、ここに来た子供たちがやりたいことをサポートしていく体制が内部のスタッフによっても、また外からの支援もあるということで、支える体制が組まれています。うまく子供たちの主体性を引き出しながら円滑にサポートできるようにしていくには、試行錯誤する場面に直面することもあるでしょう。現在の時点で、特に子供たちの主体性を呼び起こすような仕掛け、一方でそれをサポートするような体制の在り方についてはどのようにお考えでしょうか。

それから、先ほどフロアごとにセキュリティがあるために、ある意味せっかく融合できる可能性がありながら、一方でなかなかそれが少しやりにくいような設計となっていないか、お話を聞きながら少し思いました。施設全体での融合が生まれる絶好の場という、子供たちにとっても最先端での取組や考えに触れる機会として格好な場といえますが、そのあたりのこれからの創造館全体としての創造拠点としての可能性という点についてお考えがあれば伺いいたします。

(上寺産業政策課長) まず子供の独創力の事業については、大人の既成概念にとらわれずに、子供たちに何かを教えようとしたり、先回りして失敗しないようなアドバイスをしたりせずに、子供・大人という関係性を超えて共に学び合える、創造し合えるような活動を進めるということを大切にして活動を進めていくよう、事業者にもお話ししております。ただ、工作機械等もありますので、安全面での指導も重要なことになっておりますので、そういう器具を使う場合についてはスタッフがその場所に付いて、寄り添って子供たちを指導するというようにしております。

それから、融合というお話がありました。子供の独創力育成事業で今年の大きなテーマの一つとして、「究極のカレーを作る」というテーマがございます。そうしますと、実際に調理をするということであれば4階の調理室を使うと。あるいは、カレーを食べるときにも、どんな器、どんなスプーンがいいかという面もありますので、器ということであれば、先ほど申しましたスタートアップの委託事業者の中に secca という会社もがございますので、2階の「起業のまち」とも連携してやっていく。館全体で子供と大人が交わってやっていけるような体制を今後も委託事業者と協力して行っていきます。

(田邊委員) こうあればいいなということで、いろいろな取組がこの場で行われる、その成果といたらよいのでしょうか。こういう取組があったということ表現し発信できるような、1階にもオープンスペースがあるようですから、創造活動の成果を知り得る機会が用意されるといいなと思いました。

(上寺産業政策課長) 子供もテーマ別活動については発表会というものをしますし、食の価値創造では新メニューの開発ということだけか、発表会もするということで、利用していただけるように、この施設でやっていること、できたことを今後も発信していく努力はしていきたいと思います。

(田邊委員) 期待しております。

(新保企画調整課長) その他。長澤委員、お願いいたします。

(長澤委員) 元学校という施設の中で、大人も子供も共に学び、また創造し、発見する場というところでとても象徴的ですし、また楽しみな場だなと感じております。見学してみ、つくづく思いました。

この施設をより活用するためには、常に人がここに集い、融合し、刺激し合うような効果を持たせる必要があると考えます。今、コロナ禍でなかなか難しい制限下にはありますけれども、それぞれの学校からお子さんたちがこちらに場を移して学ぶような機会を積極的に取り入れていただけたらと思っている次第です。そこでお聞きしたいのが、この施設のPRを今後どのようにしていくのか、認知度や関心をどのように高めていくお考えか教えてください。

(上寺産業政策課長) 今現在も、先ほども言いましたように事業者のホームページ等でいろいろなことを発信しております。それから子供たちには、保護者にも一緒に来ていただいて体験説明会というものを開催しております。このようなことを通じて、親、子供たちの間でこの施設が広まっていけばいいなと、広げていきたいと思っております。それから、いろいろなイベント等があれば、市の方も積極的に情報発信をしまして、この施設のPRに努めていきたいと考えております。

(長澤委員) ありがとうございます。2階でしたかね、託児所もありますし、親御さんを読んで積極的にこの場を見ていただくということに配慮されているのかなと感じています。一方で、意識の高い親御さんやお子さんはそういったものに対してすごく興味を持って足を運んでくださると思うのですが、「ああ、そういうものもあるのか」といって通り過ぎてしまうお子さまも中にはいらっしゃるのが現実かと思えます。広くこの場を感じてもらうところから始めてもらったらいいというところで、いろいろな制限があるかとは思いますが、可能な環境になりましたら学校単位で、またクラス単位でもこの場を使ってみる、見てみる、体験してみる機会を積極的に、学校の方に呼び掛けていただくようなことがあってもいいのかなと感じた次第です。



あと、実際に見させていただいている中で感じたこととしまして、ちょうど関所があってセキュリティが保たれているということが大事なことである一方、先ほど田邊委員がおっしゃられたように、どういうふうに子供と大人が融合していくかという、そこを促していくところは何か仕組みを考えていったらいいなと思うところです。子供たちは、大人が4階とか3階で何をやっているのだろうというふうに思うでしょうし、「こんなことをやっているのか」「大人になっても、こういう場所を使って取り組んでいるのだな」ということを実際に感じる事ができたら、これは財産だと思います。刺激し合うところがあると思いますので、先ほどお話しして下さったように、同じ調理場を使ってやるとか、具体的なポイントで、イベントで、大人と子供が一緒になるところを積極的に作っていただきたいと思います。ここにいる大人たちが何をやっているのかということ、何らかの形で知るような仕組みがあったらいいのかなと思った次第です。ちょっと漠然としておりますけれども。

あともう一つ、子供たちの創造性を促すという意味で、見守る形で、安全面に配慮してスタッフの方がみるというお話があったかと思います。先ほど担当の方にお聞きしたら、大体2、3人の大人が子供をみるという形で安全面には配慮しているというお話だったので、そこはとても安心できる場所だと思います。しかし教室という施設の特異性から、取り扱っているお部屋によって完全に仕切られてしまっていますよね。子供がいる所には常に大人の目があるような形での配置が実際できているのかというところは、委託する金沢市としてもきちんと、施設の運営をしている会社の方々に対してチェックをしていくことが大事だと思います。まずは安全を確保するというところは何よりも大事だと思っています。

最後ですけど、研究室が4階の一番上の所にあるということで、これもとても画期的だと思います。一方で、研究は何をやっているのかよく分からないところがあって、お貸ししてしまってもそのままになってしまおうと、中で何をやっているのかよく分からない。また、設備などもどんどん増えていって、貸主として何をしているのかよく分からないということになってしまったらとても危険だなと思っています。

パンフレットを拝見していると、「定期的に事業に関する報告や面談等を依頼しますのでご協力ください」と、一応の監視体制は考えておられるということなのですが、ぜひ定期的にも見せてもらうというように積極的にこちらから働き掛けて、管理責任という面からコミットすることは遠慮せずにやっていかれたらいいと思います。ともすると、研究となるともうその専門分野ということになって、ちょっと足を踏み入れづらいところもあるかと思いますが、安全に運営していくという立場からは、大事かなと思っています。ありがとうございました。

(上寺産業政策課長) 周知の面ですけれども、長澤委員がおっしゃられたように、教育委員会とも連携しながら学校にどのような方法で周知を図っていけばいいのかということもまた相談していきたいと思っています。研究室のお話ですけれども、金沢市も、委託事業者のCLLの方も、入居者がどのようなことをしているかというチェックについては随時行っていきたいと思っています。それから、子供たちの安全管理の面ですけれども、子供たちが活動している部屋には必ずスタッフを配置するというところで、これは市と委託事

業者で取り決めを行っておりますので、徹底してまいります。

(新保企画調整課長) その他、いかがですか。それでは、これまでの議論を踏まえて教育長、いかがでしょう。

(野口教育長) 山野市長の下で「世界の交流拠点金沢」という考え方が出来上がり、その下でさらに重点戦略計画が策定されたときに、自分は教育長という立場ではありますけれども、その中で一番興味を覚えたのが、いわゆる新産業創出ビジョンやこの価値創造拠点に触れられたということでした。そのときは、自分の中ではまだおぼろげながらのものだったのですが、きっと日本にはこういった考え方でいろいろな動きが始まるのだろうと思い調べてみたところ、一番初めにヒットしたのが、福島県にあるイノベーションセンター福島というところで、通称 AiCT というところなのですが、そういうところもあるということが分かりました。

一度行ってみたいなと思っていましたが、去年時間が取れましたので、実際に会津若松に行かせていただきました。いろいろ話し合いをさせていただく中で大きく考え方が二つある施設なのだということが分かりました。一つは、会津若松というまちをスマートシティにするためにどうすればいいかということを考えていらっしゃると。もう一つは、公立大学法人会津大学というものを中心として、人材育成に力を入れているという考え方でこれを運営されているということがよく分かりました。

そういった学びを深めて帰ってきました。では金沢のこの施設はどうなのだろうということがだんだん具体化する中で、私は率直なところ、金沢市は他の都道府県や自治体がやらない価値創造拠点を目指しているのだということが分かりました。一つ端的な例を挙げますと、先ほどの説明で食文化ということに触れられていましたけれども、そこに特化されているというところがあって非常に金沢らしくていいなと思った次第であります。

先日、創造館のオープンするときにもお呼びいただきまして、コンセプト等いろいろな説明をお伺いしたり、体験もさせていただきましたけれども、私はその中で、子供たちにはぜひ三つのことを学んでほしいなと思いました。

一つは、ご指導される方から技を学ぶというか、匠さのようなものを学ぶということがきっとあるのかなど。その人が持っている力というものを学んでほしいなと思いました。

もう一つは、先ほどのコンセプトにもありましたけど、独創的で卓越した知識を持つ子供の育成ということがありましたけれども、やはりその中で子供たちには、指導される方々の発想力というものも勉強してほしいと思いました。オープニングのときに、終わってから1階の所で飲み物を頂戴しました。1階にいろいろな海洋ごみの特設展示をされていますけど、海洋ごみというものを捉えながら、それをイメージした飲み物を作ったのですよということで頂戴しました。私は下の方にある海洋ごみはモヒートだということをお伺いしたり、でも上の方は比較的きれいなのだとということで、バイオレット色のものを駆使して、ノンアルコールですけど大変おいしく頂戴しました。ああいう発想力はとても大事だと思いましたし、4階は今日は閉じておりましたが、VRの部屋もあって、こちらの方で一生懸命、学生さんたちなのでしょう、作成されていて、体験させていただきましたが、本当にああいったことを考えると、指導される発想力を学んでほしいなと感じました。

3 点目としては、先ほどの「究極のカレー」というコーナーがありましたけど、あそこの中にありますように、それぞれ自分の発想だけでは思い付かないようなもの、友達といろいろな議論を重ねながら自分の思いというものを実現してほしいし、さらに違った部分で自分がさらにアップしていくという学びがあってもいいのかなということで、非常にこの施設に対する期待というものがますます大きくなった次第であります。

ご覧のとおり、この部屋には時計が1個ありますけれども、この施設をざっと今日見学されていかがだったでしょうか。時計がありましたでしょうか。恐らくそれはこの施設の考え方なのだと思うのですが、ゆっくりと時間を気にしないで学んでほしいという思いがあったのではないかと考えていて、子供たちがここに来たときに、そうした時間など忘れて、集中して学ぶということがあったらいいなと思いました。

ただ、長澤委員が最後に触れられたように大事なことは、多くの子供たちにこの施設の良さ、施設を伝えるということ、それからこの施設に来てもらえるような仕掛け、そんなことがこれからは大事なのかなということを委員の方々のご意見をお伺いしながら思った自分の考えを述べさせていただきました。以上です。

(新保企画調整課長) ありがとうございます。それでは、これまでの説明や教育委員会のご発言を踏まえて、市長、いかがですか。

(山野市長) いやもう、見ていただいたので。

(新保企画調整課長) それでは、教育委員の皆さまからたくさんのご意見を頂きました。皆さまからのご意見も踏まえまして、着実な運営をしてみたいと思います。

二つ目の協議題でございますが、教育委員会の所管となりますので、ここからは教育長の方から趣旨をご説明いただいて、以降の進行についてもお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

### 3 コロナ禍における学びの保障について

(野口教育長) 分かりました。それではこの後は、私の方で進行をさせていただきたいと思っております。初めに、今も新保課長の方からお話がありましたとおり、今回の協議題であります「コロナ禍における学びの保障について」、趣旨説明をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、今日の新聞報道でもありましたけれども、デルタ株への置き換わりが急速に進む中で、全国的に新規感染者が急速に増加しており、これまでに経験したことのないような感染拡大の局面を迎えていると思っております。この後、事務局の方から、本市の感染者の発生状況についての説明がありますけれども、感染者の増加に伴い、児童生徒の感染者数の増加が大変懸念されている状況にあります。

一刻も早く現下の感染拡大を抑えることが必要であり、本市におきましては8月17日に、「まん延防止等重点装置」の適用期間延長に伴い、お手元に資料として置かせていただいておりますけれども、2学期の始業に向け、いま一度感染症対策の徹底に向けて通知文を发出させていただきます。

併せて8月19日には、オンラインではありますけれども校長会議を開催しまして、2学期からの学校運営に当たり、校長先生方には校内での感染拡大のリスクが高まっている状況を全教職員でまずは共有・認識していただいて、その上で学校現場での新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を一層徹底していく必要性についてお伝えしたところであります。

そこで本日は、「コロナ禍における学びの保障」を協議題としまして、本市の現状を踏まえて、本市の感染症対策ならびにコロナ禍における子供たちの学びの保障に向けた取り組みについて、委員のそれぞれの立場からご意見を頂戴しながら、今後の教育活動に生かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは初めに、事務局の方から概要を説明させていただきます。

(寺井学校指導課長) 学校指導課の寺井でございます。よろしくお願いいたします。

それでは私の方から、コロナ禍における学びの保障について説明させていただきます。

(以下、スライド併用)

まず、新型コロナウイルス感染症による児童生徒の発生状況、今年度4月から8月までを数字で示したものでございます。4、5、6、7と来て8月はひと月だけで109人の新規感染者という状況になっております。

これをグラフにして、青い棒グラフが石川県の感染者数、赤は金沢市、折れ線グラフが子供たちの感染者数を表しております。ぱっとご覧いただいたとおり、全体の感染者数が増えれば子供の感染者数も増える、全体が減れば子供も減っていくというような状況になっているというところ です。

次に、1週間ごとの感染者数を4月から追っていったものです。4月からゴールデンウィークあたりにいったん感染者数が増えました。その後は減って、7月の最終週から8月にかけて感染者数が一番多くなってきていると。この後、8月の下旬ごろから、全体から見れば少し減少している状況にあるというような経過となっているところでございます。

これらの現状を受けまして、学校における基本的な感染症対策としましては、まず大きく一つ目は「感染源を絶つ」。つまり、風邪や発熱のような症状が見られれば、まずは登校を控えて医療機関等にかかっただけ、登校を控えていただくことが一番ではないかということです。これは子供たち本人ももちろんですけども、ご家族についても同様の対応を繰り返しお願いしているところでございます。

二つ目は、これは繰り返しこれまでもやっておりました「感染経路を絶つ」ということで、身体的な距離、マスクの着用、手洗い、「新しい生活様式」の徹底を図る。

三つ目としまして、これは社会全体で同じことですが、不要不急の外出等々を避けていただく。このようなことを改めて保護者の皆さまにもお願いしているところでござ

います。

また、昨日から2学期が全小中学校、高校で始まっております。今、金沢市は「まん延防止等重点装置」適用となっておりますので、この期間においてはまず、感染リスクが高い学習活動については慎重に検討し、簡単にいえば控えるということです。子供たちが接触、あるいは近い距離で話し合うような学習活動については、できる限り控えていくということです。また、給食についても、黙って前の一方方向を向いて食べるという指導を継続しているところでございます。

また、学校行事につきましては、9月12日までの期間に予定している、泊を伴う学校行事、遠足・社会見学等については延期、もしくは中止としております。また、感染不安から登校を少し控えたいという申し出がございましたら、保護者の皆さまからご事情を十分お聞きした上で、欠席の扱いとはしないなど柔軟な対応を取るということを行います。

部活動については、可能な限り感染拡大リスクを低減させ、極力個人で行う練習にする。あるいは組み合ったり、子供たちが密集するような練習は行わないで、必要最低限の練習活動に限定する。平日は1時間、休日は2時間、こういうような制限を加えながら継続をしているところです。また、9月12日までは他校との練習試合、合同練習も行わないということにしております。

これらを受けまして、学校で感染者が判明したときは、文科省のガイドライン等々を踏まえまして、本市ではいったんは学校全体を閉じ、その後、保健所の疫学調査の結果を踏まえて対応を判断するというふうにしております。

詳しく申し上げますと、これまでは学校で感染者が出たら、まずは学校全体を臨時休業いたしました。濃厚接触者等の陰性が全て確認されるまで、学校全体の臨時休業を続けているという対応を取りました。

今後、2学期以降については、まず感染者が判明した場合は学校全体をいったん閉じます。臨時休業を行います。この間に保健所の疫学調査が進みますので、その疫学調査の結果を踏まえまして、学年閉鎖とするのか、学級閉鎖なのか、あるいは学校全体の臨時休業をもう少し継続するのか、あるいは濃厚接触者となった子供たちの出席停止のみにするのか、この辺を判断しながら、できる限り感染症対策を取りながらも子供たちの学びをできる限り保障していきたいと考えております。

また万一、臨時休業の措置となった場合、今年度、学習用の端末が整備されております。学校は1学期の間、これを順次持ち帰り等を行いながら、オンライン授業ができるような準備を進めてきております。

教育委員会としましても、1人1台の端末活用ハンドブックを各学校に配布しまして、

オンライン授業の準備を支えているところです。

これがオンライン登校日の実際の様子です。先生が教室にいて、画面に映っている子供は家庭にいて、先生とやりとりをしているということです。これは低学年なので、ハウリングが起こったら「このボタンを押しなさい」と先生が絵で指示しているところです。

これは宿題の説明を先生がしているところです。スライドを使いながら子供たちに説明しています。これは学年が少し上がっているので、タイピングで文字なども入力できますので、「夏休みの思い出をタブレットに打ち込んで先生に送ってください」というようなことをしている場面です。

これは6年生で、画面に全員が映って、先生と子供たちがやりとりをしている場面です。

これは実際に臨時休業になった中学校で、先生が教室で、家庭にいる子供たちとオンラインで授業をやっている場面です。ですので、教室には子供たちはいないということです。

これは、子供たちのうち1人が自宅待機となったと。その自宅待機になった子が、このタブレットから授業に参加しているという場面です。このようにして臨時休業になった際も、タブレット等を使いながらオンラインで学びを支えるという準備をしております。私からの説明は以上です。

(野口教育長) ありがとうございます。今ほどの寺井課長の説明は大きく分けて3点あったのではないかと思います。1点目は、新型コロナウイルス感染症による児童生徒の発生状況です。2点目は、「まん延防止等重点装置」の適用となる金沢市立学校の対応についてです。そして3点目は、いわゆる非常時における今後の対応について、学校全体が臨時休業になってしまうというか、非常時における今後の対応について。この3点であったと思います。それぞれ少しずつ視点を定めながら議論を深めていきたいと思います。

今日は越田保健所長さん、それから教育委員会の方からは寺井課長の他に加藤次長、それから堀場教育総務課長、中村学校職員課長にも来ていただいておりますので、いろいろな方向からご質問があればお答えをしていただければかなと思いますので、この後、議論を進めてまいりたいと思います。

では早速なのですが、まず児童生徒の発生状況に関わってご質問・ご意見があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。田邊委員、どうぞ。

(田邊委員) 先ほどの説明を伺い、現在の傾向は、10代、20代、若い世代の感染が広がっている状況のようです。8月に拡大したということは、一学期が終わってから、夏休みになってから拡大したということで、そのあたりのことを考えると、恐らく10代、20代は家庭での感染、学校外での感染によるものといえそうです。でも、2学期が始まると学校も再開しますし、子供たち同士の接触の機会も拡大しますので、これからのリスクにどう対応していくのかなかなか難題といえそうですが、家庭での家族間感染、それから学校

ではどうしても集団活動が緊密に行われますので、どこで持ち込んだり広がったりするのか分からないという難しさを伴います。

一方で、ワクチン接種が進んできたということもあり、ワクチンによって 100%防ぐわけではないにしても、安心感、安心材料となっていることは間違いないのが今の状況だと思います。この点で教職員のワクチン接種を円滑に進めていくことが安心感をもって職務を遂行していくために必要不可欠だと思いますが、教職員のワクチン接種の状況、それから今後の見通しについてお伺いします。

(中村学校職員課長) 学校職員課の中村です。先生方の接種状況について、接種したのかどうなのかという調査は行ってはおりません。ですが先日、ワクチン接種本部の方から 880 という枠を頂いて、この 3 日間をかけて先生方に希望者を募りました。2000 人を超える教職員がいるのですが、希望されたのは 270 名でした。その後の調査というか、その詳細を調査したわけではないのですが、先生方についての私どもの見解は、ある程度もう予約も取れているか、1 回目を接種しているか、2 回目も既に終えているかというような状況だと自分たちは判断しています。その 270 名については、今頂いたワクチンを、9 月 10 日を 1 回目として順次進めていきますので、スケジュール的にはそのような形で動いています。ですから、10 分の 1 まではいかないかもしれませんが、それに近い先生方は、既に今言った予約されているのか、1 回目、2 回目を打ったのかというような状況かなと思っております。以上です。

(田邊委員) ワクチン接種はあくまでも希望されるかどうかというのが前提ではありますが、少しでも安心材料が広がることを願っております。

(野口教育長) 櫻吉委員、どうぞお願いいたします。

(櫻吉委員) 生徒さんに陽性患者が出たときの情報の収集や管理はどういうふうになっていますか。結構大変だなと思うのです。実は僕も今週の土曜日の夜に、患者さんが陽性だということが分かって、接触者を洗い出して、保健所の職員の方とやりとりして、職員全体とか、そういういろいろなところに伝えたり、非常に大変な思いをしたので、これを一元管理するのは結構大変なのではないかと思うのですが、どういうふうにされているのか教えていただけますか。

(越田保健所長) 金沢市保健所長の越田でございます。ご覧のとおり、8 月に入って特にお子さんの感染が増えています。デルタ株の影響でどうしても感染力が強く、家庭内感染が増えています。まず医療機関等で行う検査で陽性が判明しますと、医療機関の先生は保健所に発生届を出していただくこととなります。ここから物事がスタートします。保健所が一番最初にその発生届によって、児童生徒の感染を把握します。

その後は教育委員会とのやりとりとなります。教育委員会のご家族から感染の報告があれば、学校内で情報収集を行うこととなります。われわれ保健所と教育委員会は従来、個人情報に十分留意を払った上で、きちんと情報を交換して検討を重ね、教育委員会におい

て、できるだけ早く学校の休業期間であるとか、授業の再開時期などを決めています。

併せて私ども保健所は、丁寧に個々のお子さんの疫学調査をします。疫学調査では、親御さんにお電話をしまして、まずはお子さんの症状を確認し、これまでの経過や、ご家族の状況はどうか、学校の状況はどうかと、加えて最近は学校外での活動も結構されているので、スポーツクラブチームや、塾等の状況も確認いたします。

その中で濃厚接触者を割り出していくのです。ただ今般、デルタ株が主流になってまいりましてから、必ずしも国が定義している濃厚接触者だけが感染しているわけではない、この程度でも感染してしまうということも経験上十分承知しておりますので、保健所の判断で検査対象者を特定します。ちなみに国の定義上の濃厚接触者はマスクなしで 1m の距離で 15 分以上会話をしたり、共に行動したり、ケアしたりすることになりますが、デルタ株ではマスクをしていても感染することがあるので、感染の度合いであるとか状況を多角的に検討して接触者を決めます。そして接触者と判断された方は速やかに検査をしていただくことになります。このようなステップで保健所は動きます。

一方で、そういった情報を教育委員会と共有して、学校の運営を検討していただくことになります。大切なことは、保護者とのファーストコンタクトの際に、保健所からは、「親御さんご自身の口から学校にお子さんの陽性をお伝えください」と伝えております。また疫学調査の際には、県の公表、市教委の公表に際して、「学校名などを公表してよろしいですか？」とお聞きします。概ねの方はご理解頂き、公表することに同意して下さっています。

保健所では、個人情報保護を念頭に極めて迅速な疫学調査を進めてまいりますので、今後ともそれを続けていきたいと思っております。またご不明な点などあれば保健所にご相談いただければ、できる限りのことはさせていただきますと思っております。以上でございます。

(櫻吉委員) 土曜日の遅い時間に対応していただいて、皆さん大変な思いをされているなと思って。これからもよろしく願います。

(越田保健所長) 私どもは 365 日 24 時間いつでも対応いたしますので、何でもご相談いただければと思っております。

(野口教育長) ありがとうございます。今ほど保健所の方からお答えいただきましたけれども、今日は 11 時半という一つのめどがありますので、時間もある程度限られておりますが、今の 1 点目の柱としてお話ししていただいている発生状況等について、他に何かご質問があればお受けして、ご意見もそうなのですがお聞きしたいと思うのですが、いかがでしょうか。ワクチンのこととか学校等、保健所の関係のようなどころもご質問があればいかがでしょうか。長澤委員、どうぞ。

(長澤委員) 可能であれば教えていただきたいのが、感染経路はどのようなケースが多いのでしょうか。



(越田保健所長) 子供に関してでしょうか。

(長澤委員) はい。

(越田保健所長) お子さんに関しては、やはり家庭内感染が多かったです。大人が外から持ち込んでいて、家庭内感染するケースが多いです。あとは、子供同士がマスクを外して、特に8月に入ってから多かったですけど、どうしても部活動はマスクをしませんので、部活動での感染だとか、あるいは小さなお子さんですと保育所内ではマスクをしませんので、そういったところで感染が広がってしまうことがあります。でも、やはり家庭内感染が多いです。

(長澤委員) ありがとうございます。そうすると、家庭内感染したお子さんたちが学校に集う機会がこれから増えてくることになりますので、いかに学校に持ち込まないようにするかということが大事だというふうに理解しました。ありがとうございます。

(野口教育長) 丸山委員、どうぞ。

(丸山委員) 先ほど教職員のワクチンのお話、個人接種の状況についてのお話があったと思うのですが、子供たちは今、中学生から接種券は配られていると思うのですが、子供たちのワクチンの接種状況が分かれば教えてください。

(越田保健所長) 今の小学校6年生に関しては、12歳の誕生日を迎えた翌月の1日に接種券が送られるのです。中学生の方は既に配っております。ただ、今のところはそんなに多くのお子さんの接種はなされていないですが、これから増えてくると思います。当初、高齢者から接種を始めましたので、小児科の開業の先生があまりワクチン接種をされていなかったこともありまして、このフェースになりまして改めて小児科の先生にも個別接種を担って頂くようお願いしました。できるだけ多くのお子さんが接種しやすいような環境をつくと同時に、集団接種の会場にも多くのお子さんに来ていただければと考えております。ただ、国の方からのワクチン供給の状況にもよりますが、われわれは10月末を一つのめどに希望される方へのワクチン接種を終えることができないかと考えております。

(丸山委員) ちょっと周りに聞くと、接種券は来ているけど、なかなか予約が取れないという話を聞きますので、やはりそのあたり進んでいけばと思います。

(越田保健所長) いろいろな手段で予約ができるようにして、できるだけ多くの方に早くワクチン接種を受けていただける方法を考えております。

(野口教育長) それでは1点目の柱の部分ですが、もしこれでよろしければ次の次第に移らせていただいてよろしいでしょうか。

それでは二つ目ですが、先ほど寺井課長の方から説明がございましたが、学校の対応に

ついでご意見・ご質問があればお願いしたいと思います。

(田邊委員) 今もお話がありましたように、家庭での感染が広がっているという大きな状況がありますので、2 学期が始まればなおさら家庭での感染対策に努めることを要請しないといけないと思うのですけれども、教育委員会として家庭への協力をどのように依頼されているのか、あるいはこれから呼びかけようとされているのか、お伺いします。

(寺井学校指導課長) これまでも保護者の皆さまには、先ほど申し上げたように症状等があればぜひ登校を控えてほしい、ご家族でもそういうことがあれば登校を控えてほしいという直接の書面での呼び掛けを配布させていただいております。学校ホームページ等にも掲載させていただいて、広く保護者の皆さまにご協力をお願いを繰り返しているところでございます。皆さん、少し症状があれば休みますというふうにご協力は頂いているかなと思っております。大変ありがたく思います。

(野口教育長) 木村委員、どうぞ。

(木村委員) 子供たちには、オンラインでの授業というのは全員対応できるようになっているのでしょうか。それと、家庭でやっている子とやっていない子がいたりということはないのでしょうか。保護者が働いていらっしゃったりすると、1 人であることもあると思うので教えてください。

(寺井学校指導課長) オンライン授業については1 学期、それから夏休みのオンライン登校日等でかなりテストを繰り返してまいりましたので、全ての学校で準備は整っていると思っております。また、操作につきましても、最初は小学校1 年生、2 年生はどうかと思いましたが、タブレットの使い方は子供なら案外、思った以上に慣れが早いと思えました。ああやって接続をして先生とつながっていく操作、もちろん何段階かの操作は要るのですけれども、ある意味自分のパスワードと ID を打ち込んでいけば大体つながることが理解されれば、低学年でも自分一人で大丈夫です。ですので、子供たちにとっては、その辺の操作さえクリアされていけば OK かなと思います。また通信環境等についても、できる限り支障がないように、教育委員会として丁寧に個別に対応していきたいということですので、ある子がやって、ある子がやらないということにならないようにこれからも丁寧に対応していきたいと思っております。

(木村委員) 一番大事なことだと思いますので、よろしくお願ひいたします。うれしいニュースをこの間、新聞で拝見したのですが、学力テストで石川県がトップだというのは、このコロナ禍で大変うれしく思いました。皆さまの努力があつてのものだと思いますので、本当にありがとうございました。

(野口教育長) 櫻吉委員、どうぞ。

(櫻吉委員) 今、全国の小中学校で抗原のキットが配布されているというふうに報道ではあるのですが、金沢市の学校の方の対応はどういうふうになっていますでしょうか、教えてください。

(寺井学校指導課長) まず、抗原キットについて少し説明させていただきたいと思うのですが、これを使う前に、先ほどから申しましたとおり、まず症状等があったら学校への登校を控えていただく、これが大きな原則の一つ目です。登校したり、あるいは先生方が出勤した後に発熱等の症状が出たら、すぐに帰宅をして医療機関にかかっている、これも大原則の二つ目です。この二つの原則でどうしても対応ができない、すぐに医療機関に行けない、あるいは帰宅できないような、どうしてもままならない状況があったときに、この検査キットを、教職員を対象にまず使いましょうというのが国の通知の基本です。教職員は検査をするときも、鼻に綿棒を入れて5回回すとなっているのですが、これは自分自身で行うと。検査をしようという教員がやるということです。誰か別の先生がもう一人の先生に検査をするということではないと。

同じように、登校した後どうしても帰宅ができない、すぐに医療機関にかかれない、どうしようもない状況のとき、小学校4年以上の児童生徒に対しても行うことは可能であると。この場合も、検査は子供自身が行うことになっています。研修等の動画を見て、研修を受けた教員が横に付いた上で子供が行うと。

いずれにしても、この教員が自分で行っても、生徒が自分で行っても、検査の結果は出ますけれども、それをもって正式な判断というわけにはいかなくて、もう一回改めて医療機関にかかって、最終的な判断は医療機関でやっていただくということです。国が配布しているこの検査キットは、大変限られた条件の中でどうかということです。本市の状況を見れば、まず登校を控えていただく、発熱等があれば帰宅して医療機関で受診していただくというこの段階ではほぼほぼ対応ができていないかと思いますが、今言ったようにどうしようもないケースもありますので、この辺の具体的なところについてはまた越田所長とも少し相談させていただきながら対応を考えていきたいと思っております。

(櫻吉委員) 私も実際にやりますけど、非常に技術的にも感染対策も難しいので、医療知識のない方がやるのは、そこで2次感染を広げる可能性の方が高いと思うので、頂いているのかもしれないですけど、基本的にはしない方が僕はいいと思いますけれども。

(野口教育長) 貴重なご意見ありがとうございます。それでは他にもしご意見、ご質問があればお願いしたいと思いますが、もしこれ以外の非常時のところについてでも結構かなと思うのですが、ご質問・ご意見があればお願いしたいと思います。今の柱になっている学校の対応でも構いませんが、次のところに入っても構いませんので、あればお願いしたいと思います。丸山委員、お願いします。

(丸山委員) 以前、お話があったかと思うのですが、陽性者が出たとき、子供が感染した場合に、もちろん学校の対応ということは分かったのですが、その子が陰性になってまた学校に来る際に、教育的配慮というか、やはり以前は差別のようなことが問題にな

った時期があったと思うのですが、現在のところどういう状況なのか。感染した子がスムーズにまた学校生活に戻れるのか、ちょっとそのあたり私個人的にはとても心配している点なのですが、そのあたりの学校の対応を教えていただければと思います。

(寺井学校指導課長) 今、委員がご指摘になったところは保護者の方も、本人もすごく心配になるところだと思うのですが、今の時点でそういう偏見差別につながるようなことがあったという報告は受けてはおりません。これまで感染した子供がいた学校は幾つもこれまでありました。その子供たちが休む、あるいは学校全体が臨時休業になったときについて、繰り返し校長会議でも、偏見差別につながらないようにするには繰り返し指導が要ると。道徳の授業はもちろん、学校の教育活動全体で行う。ある意味そういうときこそ教育の出番というか、一番子供たちの心を耕す、チャンスとまではいいませんが機会だというふうに思っています。

ある学校で臨時休業があり、さらに特定の一つのクラスだけが学級閉鎖のような状態になりました。そのときに、校長先生が校訓に絡めて、「今こそ思いやりと他の人たちへの優しさが必要だ。自分自身を強く持つということが大事なときだ。今こそ皆さんの力を発揮するときだ」と全校に呼び掛けて、さらに学級担任からも話をしました。その学校で特に偏見差別につながるようなことがあったという報告もないし、このコロナではなかなかマイナス面もありますけれども、私は子供にそういう中でも育ててほしいし、そういう指導をぜひ各学校では心掛けてほしいと思います。学校への繰り返しの指導は、校長会議等も通じながらまた継続してまいりたいと思います。

(丸山委員) よろしくをお願いします。

(野口教育長) 他にございますでしょうか。これでよろしいでしょうか。それでは、3番目の「非常時における今後の対応について」も特段よろしいですね。それでは委員の皆さんもうなずいていらっしゃると思いますので、三つの柱についてご意見を頂戴したと思っております。今までの各委員等の発言を踏まえて、市長の方から何かご発言がありましたら。

(山野市長) 実は僕、金沢市 PTA 協議会の会長さんと仲が良いのです。メールでも LINE でもつながってしまっていて、先ほど寺井課長の方から申し上げた、症状があるときには登校を控えてほしい、本人だけではなくて家族でも症状があるときは控えてほしいとか、部活動はこんなふうに学校ではしていきますよとか、学校の休業体制はこのような体制を取っていきますよとか、本人が心配だから、ご家族が心配だから休ませたいというときには、学校側ときちんと相談してください、学校側は柔軟に対応しますよとか、そういうことをまとめた文書があります。それに基づいて、28日に教育長が記者会見で発表してくれました。

僕はその日、会長にメールをして、「教育長がこういう記者会見をしましたよ」とお伝えしたところ、すぐに返事が来て、「いや、市長、すぐ教育委員会からメールが来ました」と。「すぐ金沢市の LINE で、保護者の皆さん、地域の皆さんへ、ぜひこのご協力をお願いします」ということが流れてきましたよ」と。「なので、自分はずっと各小学校、中学校の PTA

会長さん、育友会会長さんにこれを全部回しました」というふうにおっしゃられました。いやあ、教育委員会は仕事が早いなというのと、会長も仕事が早いなというふうに思いました。

各小中学校のPTA会長さん、育友会会長さんは、教育長や寺井課長が説明したことは既にペーパーで確認できているのですが、各小学校、中学校にどんなふうに回っているのかまではちょっと把握できておりませんが、教育委員会としましてもそうやって各小学校、中学校の少なくともPTA会長さん、育友会会長さんには、情報がその日のうちに確実に伝わるような手立てを取ってくれていますので、恐らくは各小学校、中学校でもPTA、育友会の皆さん方のところにそのような形で情報が回っているのではないかと思います。

今日は報道の方もいらっしゃいますが、こういう場での議論がいろいろな形で発信されることで、危機感を共有することもできますし、問題意識を共有することができるのだと思います。今日は忌憚のないご意見を頂きました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

(野口教育長) 市長、ありがとうございました。それでは今日は各委員の皆さま、また市長の方からも貴重なご意見を頂戴しました。頂いたご意見をしっかりと受け止めながら、子供たちが感染しないように、そして学校の学びも保障できるように頑張っていきたいと思えます。毎日の報道をよく見ておりますけれども、幾つかの報道の中で、学校の感染症対策というのはとてもしっかりできていると。そのことをまず家庭が学ぶべきではないですかという記事があったのを拝見しました。やはり子供たちが生きる空間、生活する場というのは、家庭もそうですけど、学校もそうですけど、もう一つ、うちへ帰ってからさまざまな勉強することがあると思えます。社会全体で子供たちに対して感染させないという努力が必要ではないかと思えますので、これは社会総ぐるみの闘いになると思えますが、みんなで力を合わせて子供たちの学びを保障し、子供たちを守っていければいいなと思っています。今日は大変ありがとうございました。それでは司会進行を事務局の方へお返ししたいと思います。

## 閉会

(新保企画調整課長) 皆さま、ありがとうございました。皆さま方から頂いたご意見を踏まえ、われわれも事業を推進してまいりたいと存じます。それでは、これをもちまして令和3年度第1回金沢市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。